

# 都市再生整備計画

いといがわえききた  
糸魚川駅北地区

にいがたけん いといがわし  
新潟県 糸魚川市

令和2年2月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

## 目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	新潟県	市町村名	糸魚川市	地区名	糸魚川駅北地区	面積	21.8	ha	
計画期間	平成 29	年度 ~	令和 3	年度	交付期間	平成 29	年度 ~	令和 3	年度

### 目標

【大目標】復興からの糸魚川駅北地区のにぎわいづくり

目標1: 回遊性を高めることによりまちなか全体を歩いて楽しめるにぎわいの創出を目指す

目標2: 市内外からの誘客を図るため、既存施設の拡充や、にぎわいを創出する広場など施設の整備を図る

目標3: 若者や子供世代が訪れたいくなるような施設整備と運営企画を目指し、ヒトづくりとマチづくりの「交流の場づくり」を図る

### 目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)

本市では、糸魚川地域、能生地域、青海地域の市街地(用途地域内)に都市機能が集積し、市民の約5割が用途地域内に居住したコンパクトな都市構造を形成しているとともに、各地域の市街地を連絡する鉄道網を軸とする公共交通ネットワークが構築されている。今後、人口減少や少子高齢化が進行することなどを踏まえ、このようなコンパクトな都市構造を維持するとともに、糸魚川地域、能生地域、青海地域の市街地をはじめ、富山県・長野県及び新潟市方面と連絡し、誰もが利用できる鉄道網を公共交通体系の軸として捉えながら、経済活動が盛んなエリア(商業地域など)であって鉄道駅やバス交通が集中する公共交通体系の結節点を核とし、拠点づくりを推進することにより、集約型都市の構築を目指す。

また、拠点づくりについては、北陸新幹線、日本海ひすいライン、JR大糸線の3路線を結節する糸魚川駅周辺を「中心商業・業務拠点」とし、このほか、鉄道やバス交通の結節点であり商業系用途地域が指定された能生駅や須沢南交差点周辺を「生活拠点(市街地)」として位置づけ、各拠点の役割分担を明確化し、都市的生活に必要なサービス・施設の立地を誘導する。

山間地の集落については、地域住民が住み慣れた土地で快適に暮らせるように、鉄道駅やバス交通が集中する地区を核とする拠点と、鉄道網などから離れた集落地を連絡するため、鉄道網と連携したバスネットワークの充実を推進する。

### まちづくりの経緯及び現況

新潟県糸魚川市にて平成28年12月22日に発生した糸魚川駅北大火は、南からの強風にあおられて中心市街地の約4haに延焼し、焼損棟数は147棟にのぼり、住宅や店舗などの生活基盤はもとより、長い暮らしの営みが築き上げてきた歴史的、文化財的財産も失われるなど、大規模な被害をもたらした。

糸魚川市は、この大災害を乗り越え、総力を挙げて早期の復興を目指し、市民、地域、事業者、行政等の関係者が、復興まちづくりに対する考え方を共有するための基本方針を示すとともに、その実現に向けた具体的な施策を取りまとめ、復興まちづくりを迅速かつ着実に推進していくことを目的とした「糸魚川駅北復興まちづくり計画」を平成29年8月22日に策定した。

復興まちづくり計画においては、①災害に強いまち、②にぎわいのあるまち、③住み続けられるまち、の3つの方針を掲げて復興まちづくりを推進することとしている。

①災害に強いまちについては、災害に強いまち安全な市街地再生に向け、道路の拡幅や防災公園の整備、建築物の不燃化などを進めるとともに、消防水利をはじめとする消防基盤の拡充・整備を図ることとしている。

②にぎわいのあるまちについては、人々が集い憩う中心市街地としてのにぎわいと活力を創出するために、人口減少や持続可能な運営に配慮しながら、既存施設の拡充やまちづくり活動の「場」の整備、海望施設や街なか駐車場の適正な規模や位置について検討を進めることとしている。

③住み続けられるまちについては、被災前の人口規模を回復し、将来にわたり地域の活力を維持するため、多様な住宅の供給や公園等の居住環境の整備を進めるとともに、子育てや高齢者サービスの充実や住民による地域活動の支援、企業・創業と合わせた移住の促進等により、多世代が安心して住み続けられる便利で暮らしやすいまちを目指すとしている。

糸魚川市駅北地区は、糸魚川市の中心市街地で駅に隣接した好立地であるが、高齢者の割合が市の平均よりも高い高齢化の進んだ地区でもある。そのため、復興まちづくりにおいては、被災者の再建だけを目指すのではなく、新たな居住者を招き入れることにより被災前よりもにぎわう街づくりを目指すこととしている。

復興まちづくりの実施については良好な景観で火災にも強い、景観と不燃化の両立を目指し、都市防災総合推進事業で道路拡幅事業や不燃化促進事業を実施するとともに街なみ環境整備事業を活用した良好なまちなみづくりを進めることとしており、さらには、自力再建が困難な被災者のため駅北大火復興市営住宅の建設を小規模住宅整備地区事業により実施することとしている。

なお、にぎわいの創出に係る事業については、まちづくりの観点から都市再生整備計画事業での実施を予定している。

### 課題

今回の大火により被災した地域は、加賀街道(現:本町通り)の宿場町として古くから栄え、雁木のあるまちなみや酒蔵、割烹等の歴史的資源が多く残っており、長い歴史のなかで様々な人々が住み、豊かな文化を築き上げ、多様な機能が集積していた。一方、被災前においては、65歳以上の高齢者の割合が約50%に達するなど、高齢化率と人口減少率は市全体の平均値を上回っていたほか、高齢による廃業や郊外店舗の進出などにより、空き店舗の増加をはじめとした商店街全体の活力の低下が課題となっていた。このことから、①回遊性の向上、②交流拠点としての機能強化、③人口の減少と高齢化の改善に向けた取組が必要である。

### 将来ビジョン(中長期)

【糸魚川市都市マスタープラン】平成31年3月改定

現計画は平成19年に策定され、「自然、交流、元気、明日に向けて輝くまち」を都市づくりのテーマとして掲げ、①活力ある産業を創造するまちづくり、②人にやさしく温かみのあるまちづくり、③原風景を大切にすまちづくりを目標にしている。

【立地適正化計画】平成31年3月策定

コンパクトシティ+ネットワークの実現のため、糸魚川市では将来を見据えた居住エリアの適正な規模の算出と、必要となる都市施設の適正な配置を定めた立地適正化計画を策定。

**都市構造再編集中支援事業の計画**

都市機能配置の考え方

- ・立地適正化計画におけるまちづくりの方針「若者・子育て世代が快適に暮らせる中心市街地づくり」の実現に資する区域の中心拠点として位置付けた、糸魚川地域の糸魚川駅周辺において、行政、医療・福祉、商業、交流など生活に必要な都市機能の充実を図る。
- ・能生地域と青海地域は、公共交通の効率性と利便性の向上等により糸魚川地域との連携を強化し、両地域に立地する医療・福祉、商業など日常生活に必要な都市機能の維持を図る。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

**目標を定量化する指標**

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
まちなか歩行者数	人／日	本町通りの歩行者数	来街者がまちなかを歩いて楽しめるまちづくりを目指し、中心市街地歩行者数を賑わいの指標とする	240	H29	481	R3
観光交流センター(広域観光交流拠点)来館者数	千人／年	糸魚川ジオステーションジオパルの年間来館者数	糸魚川市の玄関口でもある糸魚川駅において、鉄道資産を活用した誘客を強化し、まちなかへの回遊者の増加を図るため来館者数を指標とする	280	H29	332	R3
街づくり団体による地域活性化活動への参加者数	人／年	計画区域内で、まちづくり団体が主催するイベント活動への参加者数	まちづくり団体が活動しやすい環境を整備することで、民間主体による賑わいの創出を図るもので、復興計画内でのイベント活動への参加者数を指標とする	270	H29	560	R3

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>目標1:回遊性を高めることによりまちなか全体を歩いて楽しめるにぎわいの創出を目指す                      大火からの復興まちづくりの推進により、雁木や街なみが再生する本町通り(加賀街道)や、古道「塩の道」の起点である白馬通り(松本街道)等に点在する建造物等の歴史的資産を有機的につなぐことにより回遊性を高め、多くの来街者にまちなか全体を歩いて楽しめるにぎわいの創出を目指す。                      まちなかに人が出歩くことで、現在の街の保全だけではなく新たな魅力の発見や創造につながることを期待している。</p>	<p>地域生活基盤施設:情報板、駐車場                      高次都市施設:地域交流センター、観光交流センター拡充</p>
<p>目標2:市内外からの誘客を図るため、既存施設の拡充や、にぎわいを創出する広場など施設の整備を図る                      北陸新幹線の日本海側の玄関口であるとともに在来線・3セク路線の結節点である糸魚川駅や北陸自動車道や国道8号等の広域交通の結節点であり、歴史的旧街道の結節点でもある中心市街地の立地特性を活用し、市内外からの誘客を図るためににぎわいを創出する施設の新規・拡充整備を図る。                      街なかに新設するにぎわい創出広場と糸魚川駅に隣接して拡充する既存施設が共通のテーマを持ち連携することにより、互いに相乗効果を発揮して地域の活性化につながることを期待できる。</p>	<p>高次都市施設:地域交流センター、観光交流センター拡充</p>
<p>目標3:若者や子供世代が訪れたいような施設整備と運営企画を目指し、ヒトづくりとマチづくりの「交流の場づくり」を図る                      地元市民、特に若者や子供世代が訪れたいような施設整備と運営企画を目指し、利用者が中心となってヒトづくりとマチづくりの「交流の場づくり」を図る。                      交流の場を利用して自らまちの活動に関わることにより、地域に根ざした人材の育成とまちの維持を期待している。</p>	<p>高次都市施設:地域交流センター</p>
<p>その他</p>	
<p>【関連事業】                      復興まちづくり計画の3つの方針①災害に強いまち、②にぎわいのあるまち、③住み続けられるまちの実施に向けて、下記の事業を実施している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 都市防災総合推進事業                          道路拡幅改良、不燃化促進、防災広場整備</li> <li>2. 街なみ環境整備事業                          電線地中化、修景施設整備、道路美装化</li> <li>3. 小規模住宅地区改良事業                          改良住宅新築</li> </ol>	





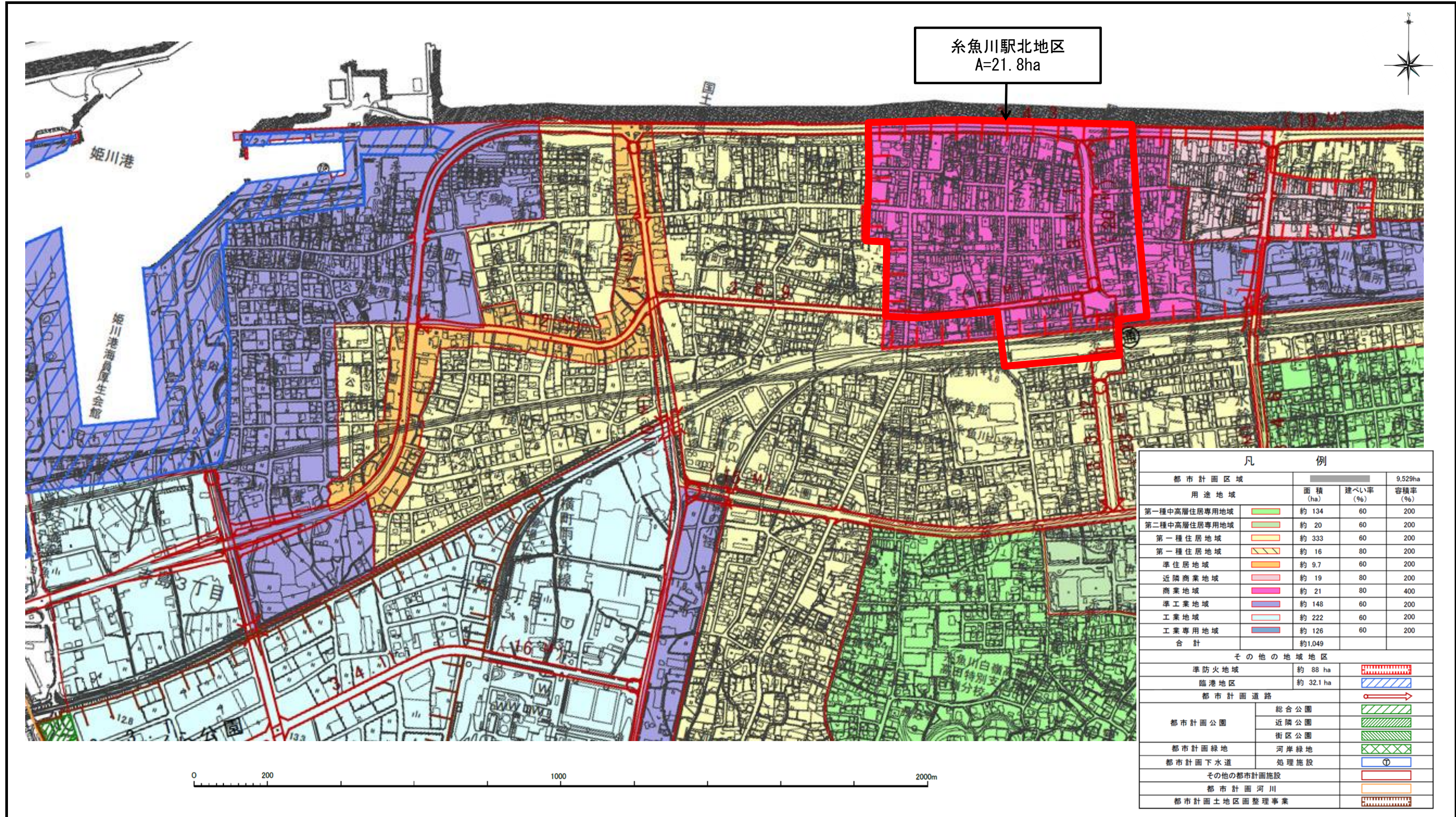
糸魚川駅北地区(新潟県糸魚川市)

面積

21.8 ha

区域

糸魚川市大字大町、本町、横町





糸魚川駅北地区(新潟県糸魚川市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	【大目標】復興からの糸魚川駅北地区のにぎわいづくり 目標1: 回遊性を高めることによりまちなか全体を歩いて楽しめるにぎわいの創出を目指す 目標2: 市内外からの誘客を図るため、既存施設の拡充や、にぎわいを創出する広場など施設の整備を図る 目標3: 若者や子供世代が訪れたいような施設整備と運営企画を目指し、ヒトづくりとマチづくりの「交流の場づくり」を図る	代表的な指標	まちなか歩行者数 (人/日)	240 (H29年度)	→	481 (R3年度)
			観光交流センター(広域観光交流拠点)来館者数 (千人/年)	280 (H29年度)	→	332 (R3年度)
			街づくり団体による地域活性化活動への参加者数 (人/年)	270 (H29年度)	→	560 (R3年度)

